



日本
笠間市

(山口市長)

新たな歴史の1頁として刻まれ、
友好は永遠に続くことになる。



笠間の菊まつり

特集

更なる繁栄と永遠の友好を誓う



ルール市で行われた締結式
クラシック音楽の演奏で歓迎

在ミュンヘン総領事の
あいさつ

友好都市協定の締結

平成30年5月13日、バーデン・ヴュルテンベルク州ルール市内にある州庭園で行われている日本Dayにあわせて、笠間市とルール市の友好都市協定の締結式が行われました。

ルール市は、ドイツ国内で唯一「菊まつり」を開催しています。日本最古の菊まつりの会場となっている笠間稲荷神社との縁がきっかけとなり、平成19年から笠間市との交流が始まりました。

そして、平成29年7月、ルール市のミュラー市長から「州庭園ショー」の招待を受けたことをきっかけに、交流をさらに深め、更なる繁栄に向けて、在ミュンヘン総領事の立会いのもと、友好都市協定の締結に至りました。

中世の風薫る街 ルール市を訪ねる

日本からおおよそ9千km。空路約11時間で欧州屈指の大空港であるフランクフルト・マイン国際空港に降り立ちました。北緯50度3分にあるフランクフルトはサハリンの中央部と同じ緯度になり、平均気温は笠間市と比較すると10度前後も低いところです。

これまでの交流

【平成18年11月】

ルール市の菊まつり開催10周年を記念し、笠間稲荷神社の菊人形と花を展示。交流が始まる。

【平成20年11月】

ミュラー市長など5名が笠間の菊まつりを視察。

【平成21年10月】

笠間稲荷神社の塙宮司や山口市長などがルール市を表敬訪問。笠間市の児童の絵画を展示し、絵画交流が開始。

【平成25年8月】

ルール市の園芸課長が笠間稲荷神社で、菊の千輪咲き、菊人形作りの技術研修を受ける。

【平成27年11月】

ミュラー市長以下9名



交流のしるしとして、ドイツに
渡り釉薬の研究をした陶芸作家
いのうえ 英基さんの作品を贈呈。



ラール市

ドイツ南部に位置し、人口4万4千人の中世の城壁に囲まれた都市。
ドイツで唯一菊祭りを開催しており、国内外から約30万人の客が訪れる。



ラールの菊まつり

ドイツ

ラール市

(Lahr)

(ミュラー市長)

友好な関係を築いて、
民間交流を進めていきたい。



美しい街並みが広がる
ラール市の中心市街地



笠間市の児童から送られた絵が
展示されています



締結式の調整を行っていたいた
ラール市職員の方々



両市の旗を掲げて歓迎してくれました

友好都市協定を締結したバーデン・ヴュルテンベルク州ラール市は、ここから南に約220kmの位置にあります。

ラール市出迎えるのバスに乗り込み、アウトバーンを走ります。幸か不幸か、この日は晴天。外にいるときは湿度が低いので、からっとしてはいますが、湿度が低いので、移動のバスはエアコンが故障していて、車内は蒸し暑さとアウトバーンのイメージとは程遠い渋滞の洗礼を受けました。

予定より遅れてラール市に到着すると、ドイツ流の歓迎で、「コーヒーブレイク」のおもてなし。続いて市内各所を案内してくれました。

ラール市は、人口4万4千人で笠間市のおよそ6割。沿道には人があふれ、賑わいをみせていました。街並みは欧州らしく古い城壁と旧市街を活かしつつ、中心地には商業施設などがまとまって並び、コンパクトなまちづくりが行われています。道路は歩道を優先した造りで幅広く、その構造は石畳みであり、日本人がイメージする欧州の街並み。沿道のカフェには、テーブルとイスがセットになったオープンカフェが必ずと言っていいほどあります。

街のシンボルは、およそ800年前に建てられた中心地にある古い城郭。そのてっぺんには、コウノトリが巣を作っています。昔、この街は二重の城壁で囲まれていて、その跡が今でも残っています。しばらく歩いていると、東京方面の有名なテーマパークにいる錯覚を起きました。

ラール市はそんな中世の薫りを色濃く残した素敵な街です。



【平成30年5月】
友好都市協定を締結

【平成29年10月】
ラール市の園芸課長、菊職人など3名が笠間市を表敬訪問。州庭園ショーの日本庭園の企画説明と友好都市協定に向けての協議を行う。

【平成29年7月】
ミュラー市長からラール市「州庭園ショー」の招待を受ける。

【平成28年10月】
塙宮司を始め5名がラール市を表敬訪問し、菊まつりを視察。

が笠間の菊まつり、流鏑馬を見学。



武者に扮する
ミュラー市長

ドイツ ラールの菊まつり

菊まつりを始める前までは観光資源が乏しかったラール市。

現在は、菊まつりを軸にした観光施策によって、ドイツ国内外から観光地として知られるまでになりました。

日本最古の菊の祭典である笠間の菊まつりは、厚物の三本立てや千輪仕立てなど仕立て方がさまざまですが、ラール市ではさまざまな建築物や構造物を活用し、花の飾り方に工夫を凝らしています。

また、笠間の菊人形とは違った人形展示も童話の世界から飛び出してきたようなワクワク感を感じさせます。



街のシンボルである城郭のほか、凱旋門？クジャク？のような飾り付けがされています。また、菊のビールなどもラール市が商品開発しています。

平成28年には山口市長がラール市から招待を受け訪独し、ラール市の菊大使に就任しました。このときの開会式には、フランスやロシアの自治体からも首長などが出席していて、国際色豊かでした。

菊まつりの会場には、観覧車が設置され、子どもから大人までたくさんの方が集まり、楽しんでいきます。また、菊まつりに関する商品開発および販売を行い、収益を上げるなど商業的な取り組みも行っています。

そして、市民の参画意識も非常に高く、市民全体でまつりを盛り上げていく意識を感じました。



締結式を終えて。

締結式で、ラール市のミュラー市長は、第二次世界大戦など日本とドイツの境遇、その後の繁栄などに触れながら、これから両市の友好と民間交流の拡大に期待しました。

山口市長は、ラール市のコンパクトなまちづくりは笠間市の目指すまちづくりの参考になりますと返し、ミュラー市長の言われた民間交流拡大の期待に添えていきたい旨を申し上げました。

この日は、現地のマスメディアも取材に現れ、ラール市側の期待と注目度は、大きなものと感じることができました。

市では、ラール市を参考にして、おしゃれで素敵な街、欧州ドイツのエッセンスを加えたコンパクトなまちづくりを目指していきたいと思っています。



写真右／右から、石松副議長、門前通り商店街の沼田理事長、笠間市商工会の飯村会長、山口市長、笠間観光協会の本間会長
写真左／笠間市国際交流協会の木村専務理事（笠間稲荷神社塙宮司代理）。

笠間市が結んでいる 姉妹都市・友好都市

田辺市(和歌山県)、**遠軽町**(北海道)
綾部市(京都府)

**友好
都市**

合気道の開祖、植芝盛平翁は、田辺市で生まれ、遠軽町で開拓のかたわら合気道の基礎を確立、綾部市で合気道の真髄を悟り、笠間市で合気道の道を究め「合気神社」を建立しました。その関わりから平成13年5月、友好都市の盟約を結び、綾部市が加わったことで平成20年2月23日に改めて友好都市宣言書を取り交わしました。

北海道 遠軽町

**姉妹
都市**

矢板市(栃木県)

矢板市は高原山の南麓に広がり、レンゲツツジの群生で有名な八方ヶ原を擁する市です。鎌倉時代に笠間城を築き上げた笠間時朝と、当時矢板城主であった、塩谷朝業が親子であったことが縁で、昭和55年7月23日、姉妹都市の盟約が結ばれました。

栃木県 矢板市

◆ 茨城県笠間市

京都府 綾部市

兵庫県 赤穂市

和歌山県 田辺市

**姉妹
都市**

赤穂市(兵庫県)

赤穂市は兵庫県の西南端、岡山県との県境にあり、市のほぼ中央を名水百選に選ばれた千種川が流れています。また、南は播磨灘に面し、海岸線は瀬戸内海国立公園の一角を占めています。赤穂浪士の討ち入りで知られる浅野氏は、赤穂転封の前は笠間の藩主でした。その縁から、昭和55年11月7日、姉妹都市の盟約が結ばれました。

**姉妹
都市**

これまでの交流



笠間市と矢板市の子ども会による訪問交歓活動

矢板市



笠間市文化連盟による
文化交流書道展



笠間市と赤穂市のボーイスカウトによる交歓キャンプ

赤穂市

姉妹都市、友好都市とは、親善や文化交流を目的に特別な関係を結んだ都市のことです。
笠間市では、友好関係を結んだことで、行政はもちろん民間の交流の活性化を推進して、両市の発展につなげていきたいと考えています。
市内には、右のような交流を図っている団体があります。これから姉妹都市、友好都市間で同種の団体と交流を深めたいなどのご相談があれば、秘書課(内線225)までお問い合わせください。